

Course number	U-LAS70 10001 SJ50				
Course title (and course title in English)	ILASセミナー : 海を観る・空を観る ILAS Seminar : Introduction to Field Observations on Sea and Weather	Instructor's name, job title, and department of affiliation	Disaster Prevention Research Institute Associate Professor, BABA YASUYUKI Disaster Prevention Research Institute Associate Professor, YOSHIDA AKIRA Disaster Prevention Research Institute Assistant Professor, Imai Yuki		
Group	Seminars in Liberal Arts and Sciences	Number of credits	2	Hours	30
Class style	seminar (Face-to-face course)	Year/semesters	2024・Intensive, First semester	Quota (Freshman)	6 (6)
Target year	Mainly 1st year students	Eligible students	For all majors	Days and periods	Intensive
Classroom				Language of instruction	Japanese
Keyword	海洋観測 / 気象観測 / 地形計測				
[Overview and purpose of the course]					
地球上の大気現象の基となる太陽からのエネルギーは、まず地球の表面である陸面や海面に与えられます。このエネルギーが熱や水蒸気として大気に輸送され、大気と海洋、陸水間の相互作用の中で様々な現象を引き起こします。このILASセミナーでは、海や大気に関わる現象およびそれらの相互の関係について、実際の観測を通して学びます。事前ガイダンスの講義で学んだ知識を、実地観測を通じて参加者の実体験として確かめることにより、現象への理解および現象を捉える観測についての理解を深めます。					
[Course objectives]					
<ul style="list-style-type: none"> ・海、砂浜形状および気象の現地観測体験を通じて、現象を捉える方法について理解する ・海および気象に関する現象を体験に基づいて深く理解し基礎知識を習得する ・観測したデータの処理・グラフ化を行い、沿岸の水温、塩分濃度の分布、地上付近の大気変動および砂浜形状の特徴などについて説明できるようになる 					
[Course schedule and contents]					
本セミナーは、事前ガイダンス（通常1回）と現地での実習から構成されています。					
受講者決定後、5月ないし6月中に吉田キャンパスにおいて事前ガイダンスを開催します（ガイダンスの日時は、履修確定後に受講生と相談の上決定します）。ガイダンスでは、概要説明のほか、実習の日程調整も行います。					
フィールドでの実習の内容は次の通りです。					
(1) 海洋観測入門					
(2) 気象観測入門					
(3) 砂浜形状計測入門					
注1：それぞれの実習内容に関するレポート課題を出します					
注2：現地までの交通費、現地での宿泊費、食費などは原則として受講生の負担とします					
実習は、和歌山県白浜町にある防災研究所白浜海象観測所周辺で行う予定です（和歌山県串本町にある潮岬風力実験所での実習を追加で実施する場合があります）。本セミナーは集中講義形式で、例年8月下旬～9月上旬頃に1泊2日の日程で実施しています（日程の詳細はガイダンスで調整します）					
Continue to ILASセミナー : 海を観る・空を観る(2)					

ILASセミナー：海を観る・空を観る(2)

が、実習の内容から原則1泊2日の日程とします)。
実習日程の決定後の変更、補講は行いませんので、受講希望者は8月下旬～9月上旬頃の予定を十分考えた上で、選択して下さい。実習が主体の集中形式の講義のため、受講決定後の取りやめや欠席は、他の受講生の迷惑になります。厳に慎むようにお願いします。

[Course requirements]

実習では海水の水温、密度、大気的气温、湿度、風向風速、気圧などを扱いますので、物理の基礎的な内容については事前に自習を求めます。またGPSを使った位置計測や測量方法など砂浜形状の計測に関連する事項についても事前に調べておいてください。

また、実測結果をグラフ化する作業もありますので、表計算ソフトウェアなどの使い方を学んでおくことを勧めます。

なお、実習時に必要になる専門的な知識については、実習期間内で適宜補足します。

[Evaluation methods and policy]

成績は平常点（出席と参加態度（ガイダンス10点、実習30点））、レポート（3実習項目、各20点）により評価します。

- ・ガイダンス、実習への参加は必須とします（レポート提出のみは受け付けません）
- ・各実習への参加状況（計測作業やデータ整理などへの参加姿勢等）も平常点の評価対象とします
- ・レポートに独自の工夫が見られるものについては、高い点を与えます

[Textbooks]

特に指定はありません。

実習時に必要な資料等は、適宜配布します。

[References, etc.]

（References, etc.）

宇野木早苗 『沿岸の海洋物理学』（1993）ISBN:4486012461（課題取組み時の参考図書です（購入不要））

（Related URL）

<http://rcfcd.dpri.kyoto-u.ac.jp/frs/shirahama/index.html>(白浜海象観測所)

<http://rcfcd.dpri.kyoto-u.ac.jp/frs/swel/SWEL.htm>(潮岬風力実験所)

[Study outside of class (preparation and review)]

このILASセミナーの特色は、紀伊半島の美しい自然の中で、大気の動きや海のふるまいを現地での実際の観測を通じて実体験することです。

履修が確定したら、海（沿岸）、気象、砂浜（海岸地形）等をキーワードに、関連する資料を読んでおくといいでしょう。「流域圏」というキーワードで資料を探してみるのもよいでしょう。

[Other information (office hours, etc.)]

フィールドでの実習を行いますので、学生教育研究災害傷害保険等、傷害保険には必ず加入した上で受講してください。また、実習時には動きやすく、ある程度汚れても良い服装（体操服、作業着など）および筆記用具、計算機等を準備してください。

また、本ILASセミナーに関する連絡は、KULASISの授業連絡メールおよびPandAを通じて行いますので、メール本文および添付ファイルも受け取れるメールアドレス（原則、全学メールアドレス）を必ず登録するようにしてください。

ILASセミナー：海を観る・空を観る(3)

本セミナーは集中講義形式で、例年8月下旬～9月上旬頃に1泊2日の日程で実施しています（日程の詳細はガイダンスで調整しますが、実習の内容から原則1泊2日の日程とします）。受講希望者は8月下旬～9月上旬頃の予定を十分考えた上で、選択して下さい。実習日程の決定後の変更、補講は行いません。

現地までの交通費、現地での宿泊費、食費などは原則として受講生の負担とします。
交通費の目安：

- ・高速バス（明光バス、大阪～白浜、往復）5,900円程度
- ・鉄道（JR特急くろしお、新大阪～白浜、往復）12,000円程度

なお、実施時期が例年8月下旬～9月上旬頃のため、成績報告が遅れる場合があります。

オフィスアワー実施の有無は、KULASISで確認してください。